

なおきさんじゆうご うちいり
直木三十五「討入」より

「やせろうにん とりいりえもん
瘦浪人、鳥居利右衛門じゃ、一度にかかれ」と声をかける。

「うん、いい敵じゃ、不破数右衛門、いざ」

と寄るに、木村岡右衛門、前原伊助、槍と刀で左右から迫る。

「二人でよい。これしきの男に……さあでくの棒参れ」

中段につける三尺二寸の大太刀、相青眼のままに互の刻

み足、一二尺を進みつつ退きつつ、じりじりと右へ廻りつつ隙

を窺う。木村、前原の二人互に好敵手なのに見惚れながら突立

ちつつ敵の加勢の者に目を配る。

「糞つ」

と、大喝数右衛門、猛然と踏込んで打込む、ひらりと後へ

半間余り、刀を引こうとする数右衛門の籠手へくる銚子尖。辛

くも鰐元で受けて立直る青眼。

「参れ、素浪人。どうじゃ」

と声かけながらじりじりと刻み寄る。数右衛門退きながら、

カチリと当てる銚子尖、この大胆な隙付入る利右衛門、袈裟掛

けに斬込んでくるのを受けもせず、身を躲しざま片手打に真

向へ。不破得意の捨身の戦法。躲したが胸から帯へかけて衣類

が断裂かれる。と共に三尺という刀の長さ、利右衛門の頬先か

ら唇へかけて三寸余り斬つける。

「どうじゃ、どうじゃ」

と声をかけつつ、続いて真向へ、カチリと刃が合う。畳掛

けてから、かち、斬つげながらさつと飛退く。それを追って流

星の如く打込む利右衛門、払って身を沈めながら脚を薙ぐ、飛

さがる。もう二人とも呼吸が乱れてくる。口が利けない。